

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

永観二年<sup>①</sup>甲申八月二十八日、位につかせ給ふ、御年十七。寛和二年<sup>②</sup>丙戌六月二十二日の夜、<sup>A</sup>あさましく候ひしことは、人にも知らせ給はで、<sup>B</sup>みそかに花山寺におはしまして、御<sup>③</sup>出家入道させ給へりしこそ、御年十九。世を保たせ給ふこと二年。その後二十二年おはしましき。

<sup>C</sup>あはれなることは、下りおはしましける夜は、藤壺の上の御<sup>④</sup>局の<sup>⑤</sup>小戸より出でさせ給ひけるに、<sup>D</sup>有明の月のいみじく明かかりければ、「<sup>⑥</sup>顕証にこそありけれ。いかがすべからむ。」と仰せられけるを、「さりとて、とまらせ給ふべきやう侍らず。<sup>⑦</sup>神璽・宝剣わたり給ひぬるには。」と、栗田殿のさわがし申し給ひけるは、まだ帝出でさせおはしまさざりけるさきに、手づからとりて、<sup>⑧</sup>春宮の御方にわたし奉り給ひてければ、帰り入らせ給はむことは、あるまじくおぼして、しか申させ給ひけるとぞ。

<sup>E</sup>さやけき影を、まばゆくおぼしめしつるほどに、月の顔に<sup>⑨</sup>群雲のかかりて、少し暗がりゆきければ、「わが出家は<sup>⑩</sup>成就するなりけり。」と仰せられて、歩み出でさせ給ふほどに、弘徽殿の<sup>⑪</sup>女御の御文の、

日ごろ破り残して御身も放たず御覧じけるをおぼしめし出でて、「しばし。」とて、取りに入りおはしましけるほどぞかし、栗田殿の、「いかに、かくはおぼしめしならせおはしましぬるぞ。ただ今過ぎば、<sup>F</sup>おのづから<sup>⑫</sup>障りも出でまうで来なむ。」と、そら泣きし給ひけるは。

さて、土御門より<sup>⑬</sup>東さまに率て出だし参らせ給ふに、晴明が家の前をわたらせ給へば、みづからの声にて、手をおびたたく、はたはたと打ちて、「帝王おりさせ給ふと見ゆるは。天変ありつるが、すでになりけりと見ゆるかな。参りて奏せむ。車に<sup>⑭</sup>装束疾うせよ。」といふ声聞かせ給ひけむ、さりとともあはれには思し召しけむかし。「かつ、式神一人<sup>⑮</sup>内裏にまゐれ。」と申しければ、目には見えぬものの、戸を押して、御後をや見参らせけむ、「ただ今、これより過ぎさせおはしますめり。」といらへけりとかや。その家、土御門町口なれば、御道なりけり。

花山寺におはしまし着きて、<sup>⑯</sup>御髪下ろさせ給ひて後にぞ、栗田殿は、「まかり出でて、<sup>⑰</sup>大臣にも、変はらぬ姿、いま一度見え、かくと<sup>⑱</sup>案内申して、必ず参り侍らむ。」と申し給ひければ、「朕をば、謀るなりけり。」とてこそ、泣かせ給ひけれ。あはれに悲しきことなりな。日ごろ、よく、御弟子にて候はむと契

りて、すかし申し給ひけむが恐ろしさよ。東三条殿は、もしさることやし給ふと、<sup>G</sup>あやふさに、さるべく<sup>H</sup>おとなしき人々、なにがしかがしといふいみじき源氏の<sup>19</sup>武者たちをこそ、御送りに添へられたりけれ。京のほどはかくれて、<sup>20</sup>堤の<sup>21</sup>辺よりぞうち出で参りける。寺などにては、もし、おして人などやなし奉るとて、一尺ばかりの刀どもを抜きかけてぞ守り申しける。

(1) — ①～②①の漢字の読みを、現代仮名遣いでそれぞれ答えなさい。

(2) ～～A～Hの語句の意味を答えなさい。

(3) 次の文章の「ア」「イ」「ケ」に適切な語を入れなさい。

本文は、「ア」時代後期に成立した『イ』に収められている。『イ』は、元来正確な命名がなく、作品中の語り手である「イ」の名などで呼ばれていた。その構成は、中国の『エ』にならい、人物中心の「オ」で語られている。同じ時代を扱った歴史物語『カ』とは対照的な叙述である。

『イ』は四鏡の一つであるが、四鏡のうち『イ』以外の作品は時代順に『キ』『ク』である。

高校古典 大鏡「花山天皇の出家」(漢字・知識) 解答

(1) ① きのえさる ② ひのえいぬ ③ すけ

④ つぼね ⑤ こど ⑥ けんしよう

⑦ しんじ ⑧ とうぐう ⑨ むらくも

⑩ じようじゆ ⑪ にようご ⑫ さわ

⑬ ひんがし ⑭ そうぞく ⑮ だいら

⑯ みぐし ⑰ おとど ⑱ あない

⑲ むさ ⑳ つつみ ㉑ わたり

(2) A 意外で驚くばかりだ B 人目を忍んで

C しみじみとお気の毒に思われること

D 夜が明けてもまだ空に残っている月

E 明るい月の光 F 自然と

G 気がかりなために H 思慮分別のある

ア 平安 イ 大鏡 ウ 大宅世継

エ 史記 オ 紀伝体 カ 栄華物語

キ 今鏡 ク 水鏡 ケ 増鏡